

群 教 セ	F08 - 01
	令元.272 集
	生徒指導

# 自他のよさに気付き 認め合うことができる児童の育成

—課題解決ゲーム・成長タイムの活動を通して—

特別研修員 川崎 和史

## I 研究テーマ設定の理由

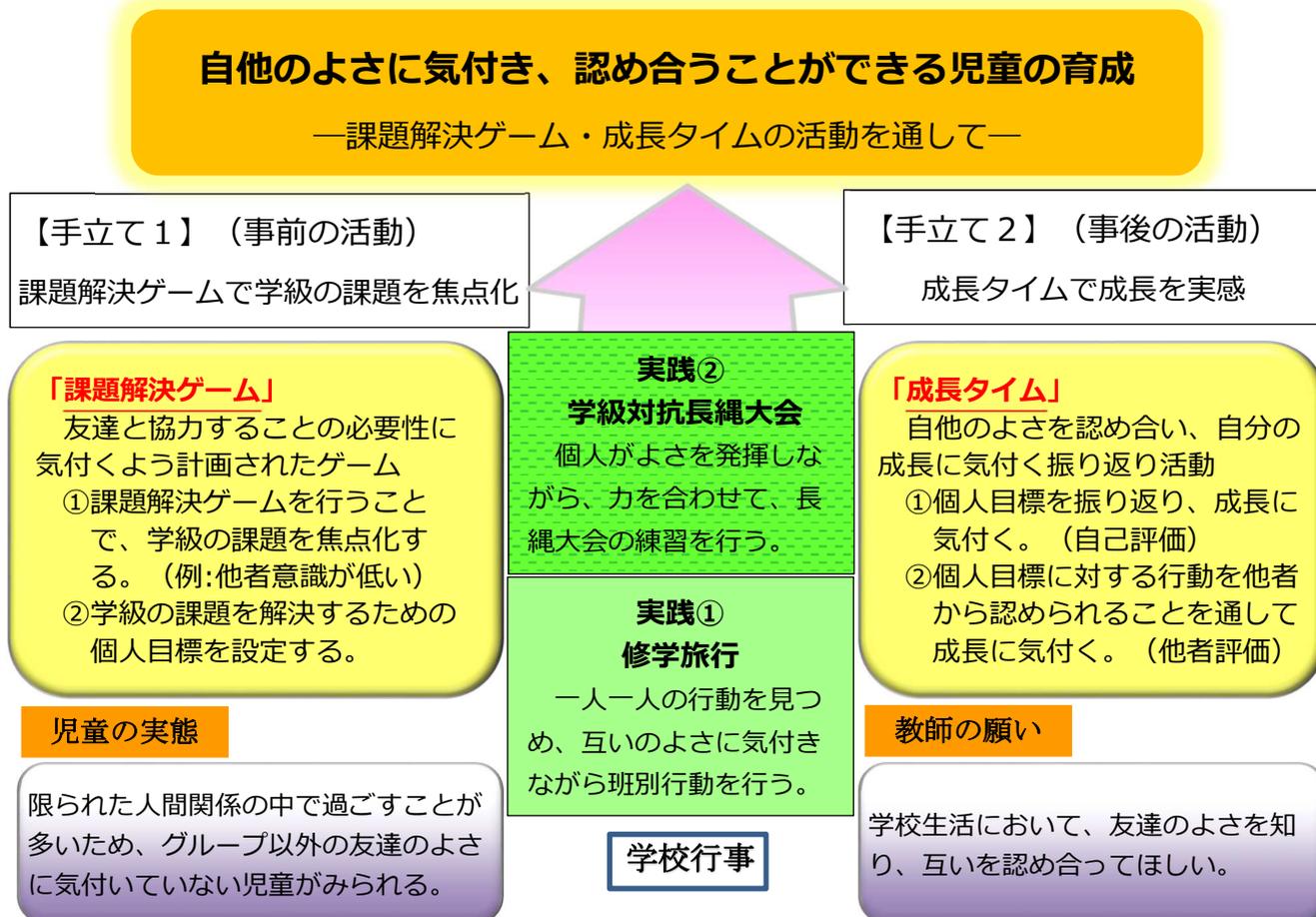
平成31年度群馬県学校教育の指針には、学級経営・生徒指導における、集団指導と個別指導の充実の項目において、「集団に支えられて個が育ち、個の成長が集団を発展させるという相互作用を生かした指導・支援に取り組む」ことが示されている。

小学校学習指導要領解説（平成29年7月）特別活動編で、内容「学級や学校の生活において互いのよさを見付け、違いを尊重し合い、仲よくしたり信頼し合ったりして生活すること」において「自他の個性を理解して尊重し、よりよい人間関係を形成することは、特別活動の大きな役割の一つである」と示されている。

本学級（6年生）は、男子13名、女子15名の構成である。児童は、自主的に下級生の面倒をみたり、模範となる態度で行事に参加したりするなど、最上級生としての自覚をもって生活している姿が見られる。一方で、いつも同じ友達とグループを組む傾向があり、限られた人間関係の中で生活を送っているため、グループ以外の友達のよさに気付いていない児童が見られる。そこで、本主題において、児童に課題解決ゲームで学級の課題を焦点化させ、成長タイムで成長に気付くことを通して、学級の児童同士が交流し、互いのよさを見付け、違いを尊重して、認め合うことができる児童を育成することができると考え本研究を設定した。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



## 2 授業改善に向けた手立て

学級の全員が参加する学校行事において、目標を共有しながら、互いに協力して課題を解決していく経験を積むことで、認め合うことができる児童を育成することができると考え、そのための手立てを以下のように設定した。

### 手立て1 「課題解決ゲーム」を活用した個人目標設定の工夫

「課題解決ゲーム」とは、学級の課題を焦点化するために実施する、意図的に計画したゲーム。

- ・課題解決ゲームを行うことで、児童自身が学級の課題に気付くようにする。
- ・課題解決ゲームを行うことで、学級の課題を焦点化させる。（例「人間関係」）
- ・学級の課題を解決するための個人目標を設定させる。

### 手立て2 成長を実感する「成長タイム」の工夫

「成長タイム」とは、自己評価や他者評価を受けることで成長に気付く振り返りの活動。

- ・個人目標に対する行動を自分で振り返り、達成感を感じることで成長に気付くようにする。（自己評価）
- ・個人目標に対する行動を他者から認められることを通して、成長に気付くようにする。（他者評価）

## III 研究のまとめ

### 1 成果

- 児童が、授業の初めに考えていた学級の課題は、「上手にできない」「他の学級に負けている」といったものであった。そこで、手立て1の「課題解決ゲーム」を行い、学級の課題を解決していくためには、人間関係を改善していくことで必要であることを学んだ。その上で考えた個人目標では、約8割の児童が「心一つにする」「みんなが何を考えているか想像する」「相手の気持ちを考える」といった人間関係を重要視するものに変わっていった。児童が人間関係を重視して学校行事に臨むことで、相手意識をもって互いのよさに目を向けることができた。
- 学校行事後に手立て2の「成長タイム」で自己評価や他者評価を行った結果、児童アンケートには「いろいろな友達のよいところがたくさん見付かった」「自分がしていた行動を友達が教えてくれて、初めて気付くことがあり、嬉しくなった」等の意見があった。これらの意見から、児童自身が友達から評価されることで、新しい気付きがあり、成長を実感することにつながったと考える。  
また、「相手のことを一番に思って協力してくれたので、失敗がなかった」「協力できるようになったから、上手くいった」「〇〇君を見て、自分も頑張ろうと思った」といった意見が見られた。児童同士が、互いのよさに目を向け、伝え合うことで、自他のよさに気付き、認め合う人間関係を築くことにつながったと考える。

### 2 課題

- 修学旅行では、同じ班の友達の行動を見て、互いによさに注目しながら活動できたが、記録する場所や時間を確保していなかったため、児童が目標達成のためにとった行動を振り返りにつなげられない場面も見られた。メモ用紙を用意したり、一日の行動表にあらかじめ記録する時間を確保したりするなどが解決策として考えられる。
- 学級対抗長縄大会のような行事では、練習を繰り返す中で個人目標を忘れ、全員が満足することよりも勝敗に拘ってしまう児童が出てきたため、その都度、それぞれの個人目標に立ち返らせて、自分の言動について振り返らせることが必要であった。

## 実践例

### 1 題材名 「学級対抗長縄大会の個人目標づくり」 (第6学年・2学期)

#### 2 題材について

本題材は、小学校学習指導要領学級活動(2)解説編(平成29年7月)指導内容「(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の「イ よりよい人間関係の形成 学級や学校の生活において互いのよさを見付け、違いを尊重し合い、仲よくしたり信頼し合ったりして生活すること」に関するものである。

本校では、毎年、学級対抗長縄大会が開催され、全校児童が参加し自分たちの目標に向けて努力している。大会に向けて練習する中で、児童は、日常生活では気付かない互いのよさを見付けたり、励まし合ったりする姿が見られる。また、長縄を跳ぶ時の並び順や、縄を回すスピードなどについて、意見を出し合いながら練習し、学級がまとまっていく。

本学級の児童は、1学期から継続して、人間関係や集団の力に焦点化して学級目標を作り、学校生活を送ってきた。生活の中で、児童は互いのよさを見付ける経験を積み、違いを受け入れることができるようになってきた。しかし、その関係は仲のよい班の友達同士に限られることが多い。そこで、学級対抗長縄大会において、学級の全員が参加して練習する中で、児童同士が交流し、互いのよさを見付け、違いを尊重して活動する経験を積むことで、よりよい人間関係を築いていくことができると考え本題材を設定した。

以上のような考えから、本題材では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	課題解決ゲームで、学級の問題を人間関係の視点から捉え解決策を話し合うことを通して、相手の立場や考え方を理解して行動する個人目標を立てることができる。	
評価 規 準	関心・意欲・態度	自己の生活の充実と向上に関わる問題に関心をもち、自主的に日常の生活や学習に取り組もうとしている。
	集団の一員としての思考 ・判断・実践	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、日常生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。
	集団活動や生活についての知識・理解	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの大切さ、そのための健全な生活や自主的な学習の仕方などについて理解している。
過程		主な学習活動
事前の 活動	1 問題を発見 ・確認する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材を設定する。</li> <li>・アンケートをとり問題を発見する(計画委員による)。</li> <li>・学級対抗長縄大会における学級に共通する課題を設定する。</li> </ul>
本時	2 解決方法等 を話し合う 3 解決方法を 決定する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決ゲームを行うことを通して、学級の課題に対する解決方法を話し合う。</li> <li>・学級の課題を解決するための個人目標を決定する。</li> </ul>
事後の 活動	4 決めたこと を实践する 5 振り返る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級の課題を解決するために、個人目標を意識して、学級対抗長縄大会の練習や本大会に取り組む。</li> <li>・「成長タイム」を設け、学級対抗長縄大会の振り返りを行う。</li> </ul>

#### 3 本時及び具体化した手立てについて

本時は、全授業計画の第2時に当たる。本題材では、児童が「自分のことばかりではなく、友達の気持ちも考える」「みんなと力を合わせる」など、よりよい人間関係を目指すという視点をもった個人目標を立てるために次のような手立てを設定して活動した。

##### 手立て1 「課題解決ゲーム」を活用した個人目標設定の工夫

- ・今回扱ったのは「協力パズル」というゲームで、班にバラバラになったパズルを配り、自分のパズルと友達のパズルの両方に気を付けながら、班員全員のパズルを完成させるというゲームである。

- ・課題解決ゲームを行うことで、児童自身が学級の課題に気付くようにする。
- ・課題解決ゲームを行うことで、学級の課題を焦点化する。（例「人間関係」）
- ・学級の課題を解決するために個人目標を設定する。

#### 手立て2 成長を実感する「成長タイム」の工夫

- ・個人目標に対する行動を自分で振り返り、達成感を感じることで成長に気付くようにする。  
（自己評価）
- ・個人目標に対する行動を他者から認められることを通して、成長に気付くようにする。  
（他者評価）

### 4 授業の実際

#### (1) 事前の活動

事前に行われた「学級対抗長縄大会」の練習での取り組みについて自己評価した結果を平均化すると満足度が図1のようになった。また、児童が考えた、この段階での学級の課題は「回数が少ない」「引っかかる」「練習が足りない」等であった。そこで、単に技術が向上し、優勝することのみに価値をおくことがないように、結果以外にも大切なことがあることがあることに気付けるように声掛けをした上で話し合いをした。その結果、「チームワークの欠如」「心が一つになっていない」に集約されていったため、それを学級の課題として設定した。

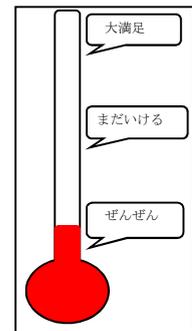


図1 満足度

#### (2) 本時の活動

学級の課題を解決するには、具体的にどのような行動をすればよいのか、体験を通して考えることができる意図的に計画した課題解決ゲームを実施した。

##### ① 課題解決ゲーム

課題解決ゲームの「協力パズル」は、バラバラに配られた5種類のパズルを班の友達と交換しながら、全員分を完成させるものである（図2）。ただし、自分が欲しいピースを要求することはできず、相手が欲しているピースを提供することによってのみ解決していくというルールにした。最初は、自分のパズルを完成させようと必死になり、開始時は、自分のことだけを考えていたが、次第に友達のパズルを見て、助け合うようになり、終了時には、協力しながら全ての班がパズルを完成することができた（図3、4）。

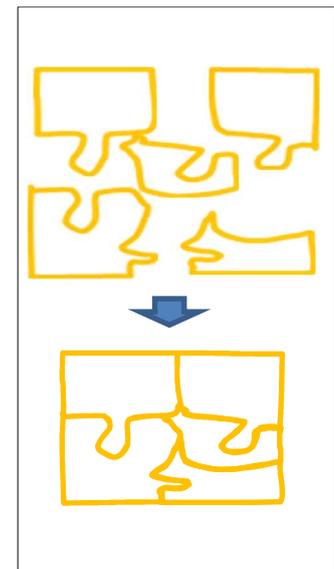


図2 協力パズル

##### ② 解決方法の話し合い

全員の前で児童が自分のパズルだけではなく、友達のパズルを見ることによって完成したことを紹介したあと、各自が気付いたことをワークシートに記入した。次に個人の考えをもち寄って、課題の解決方法を班ごとで話し合い、まとめた結果、次ページ図5のような意見が出された。

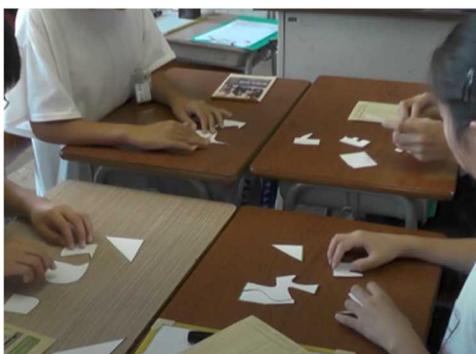


図3 協力パズルに取り組む児童



図4 協力して協力パズルに取り組む児童

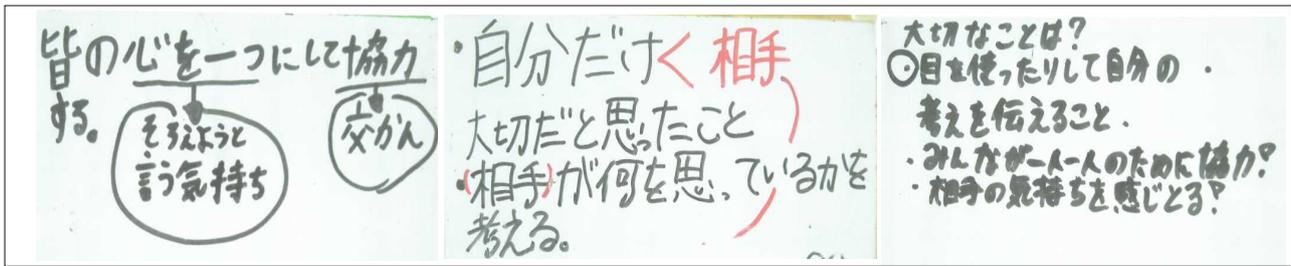


図5 各班の意見

③ 個人目標の決定

全体の話合いの結果、出された解決策を基にして、各人が個人目標を設定し、ワークシートに記入した。多くの児童が「相手の立場や考え方を理解して行動する」ことに関連した個人目標を立てることができた(図6)。

(3) 事後の活動

学校行事が終わった後、個人目標に対する自分の取り組みを振り返るために行った「成長タイム」において、学級の課題を解決するために自分がどのような行動をしたかについて振り返り、自己評価する。次に、友達から自分の行動が周りの友達にとってどのようなよさや影響があったかについて伝え合う活動を行った。児童の振り返り用紙には、「大きな声を出して、全員のやる気につながった」「前の人の背中を押していたので、勇気をもって跳ぶことができた」「笑顔で跳んでいたのも、みんなが明るい雰囲気になった」等という感想があった。このことから、学級対抗長縄大会を通して成長した自分を客観的に確かめることができ、成長を実感することができたと考えられる(図7)。

みんなが何を考えているか跳びやすいように見る。考える。	人の気持ちを理解する。相手の事も考え、みんなで協力する。
相手の立場になり、考えてみたり、行動してみたりする。	自分のことだけではなく相手を見る。

図6 個人目標



図7 成長タイム

5 考察

本学級では、いつも同じ友達とグループを組もうとし、限られた人間関係の中で生活を送っている姿があるため、グループ以外の友達のよさに気付いていない児童が見られる。そこで、学校行事を通して、児童同士が交流し、自他のよさを見付け、違いを尊重して活動する経験を積むことで、よりよい人間関係を築くことができると考え本題材を設定した。

本時では、個人目標を考える際に、課題解決ゲームを行うことで、人間関係の向上に焦点化した目標を立てられるようにした。参観者からは「ゲームをする前と後では、児童の意見が相手を意識したもの変わった」、「ゲームを行ったことで、人間関係に焦点化した話合いができていた」等の感想が寄せられた。また、児童が立てた個人目標も、約8割の児童が人間関係を向上することに関連する内容になっていた。

本番に向けての練習を進める中で、具体的にどのような言動をしたのか日々振り返りを行い、その都度、個人目標を確認・調整した。事後の振り返りのワークシートでは、自分の評価だけでなく、友達からの評価を書いてもらうことを通して、多くの児童が自分の成長した点や、新たなよさに気付くことができたという感想をもつことができた。

本学級では、1学期から学校行事を要にしつつ、日常的に互いのよさを認め合う活動を繰り返し行ってきた。また、人間関係を向上することを意識してきたため、児童からチームワークの重要性や協力することの意義についての発言が聞こえるようになった。そのため、友達に声を掛けたり、手伝いをしたりする等、相手を思いやる姿が見られるようになってきた。これらのことから、児童は、自他のよさに気付き、互いに認め合うことや違いを尊重することによって、よりよい人間関係を築けたと考えることができる。